

岩手県金融経済概況（平成 25 年 10 月）

1. 概 況

県内経済は、回復している。

最終需要の動向をみると、個人消費は、個別指標の動きにバラつきもみられるが、全体としては底堅く推移している。公共投資、住宅投資は、高水準の前年を更に上回る伸びを示している。設備投資では、当初計画を上方修正する動きがみられている。

鉱工業生産は減少したが、雇用、所得環境は、改善地合いを辿っている。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、天候要因等もあって個別指標の動きにはバラつきがみられるものの、全体としては、雇用所得環境の改善を映じて底堅く推移している。

百貨店売上高（10 月）は、月中の気温が平年比高かったこともあって、衣料品を中心に前年割れとなった（震災前の平成 22 年 10 月対比でも前年割れ）。

スーパー売上高（9 月；全店舗ベース）は、高水準の前年並みとなった。

新車登録台数（10 月）は、エコカー補助金の受付終了の影響が一巡する中、新車投入効果等から前年を上回った。

(2) 建設投資（公共投資、設備投資、住宅投資）

公共投資（公共工事請負額；10 月）は、震災復旧関連工事を中心に大幅な増加を続けている。

民間設備投資（平成 25 年度計画；短観ベース）は、製造業、非製造業とも高水準の前年度を下回る計画ながら、6 月調査対比では、下期計画を大幅に上方修正する姿となっている。

—— 製造業では、加工業種の一部で需要持ち直しを眺めた能増投資に踏み切る先がみられるほか、非製造業でも上方修正する動きが目立っている。

住宅投資（新設住宅着工戸数；9 月）は、震災関連建替需要等から増加している。

こうした状況を反映して、県内における官民建設工事全体の出来高（建設総合

統計；9月)は、引続き大幅な伸びを続けている。

3. 生産動向

県内鉱工業生産指数(8月;季調済前月比)は、マイナスに転化した。

—— 品目別では、窯業・土石製品工業が増加基調を維持している一方、ウェイトの高い電子部品・デバイス工業、輸送機械工業は、前月比減少した。

4. 雇用、所得の動向

雇用情勢は、改善地合いを辿っている。

有効求人倍率(9月)は、2ヵ月連続で1.04倍となった(5ヵ月連続で1倍を超える動き)。

—— 地域別有効求人倍率(原数値)では、以前から高水準で推移していた沿岸部に加え、足許では、内陸部でも改善している。

雇用保険被保険者数(民間企業中心の全数調査；9月)は、直近ピーク(これまでのピークは、本年7月)を更新した。

名目賃金指数は、8月に4ヵ月振りに前年を若干下回ったが、9月は再び前年対比でプラス転化した。

こうした動向を受けて、雇用者所得(県内合計値)は、8月に4ヵ月振りに僅かながら前年比マイナスとなったものの、9月は再び増加に転じている。

5. 企業倒産

企業倒産(10月)は、2件、1.7億円と件数、金額共に前年を下回った。

6. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金は、個人、法人が前年を上回って推移しているほか、公金は前年比高い伸びを続けていることから、全体でも前年を上回った。

貸出は、前年水準を上回っている。

この間、貸出約定平均金利は、低下している。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622 (代) <http://www3.boj.or.jp/morioka/>